

シングルレバー混合水栓

LF-J340SY型

工事店様へのお願い

貴店名ならびに据付引渡し日を保証書にご記入の上、お客さまに必ずお渡しください。また、定期的に交換が必要な部品があることをお客さまに必ずお伝えください。

商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。
なお施工完了後、この施工説明書を同梱の「取扱説明書の袋」に入れてお客さまにお渡しください。

施工の前に

安全上のご注意

- 施工前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しく施工してください。
- ここに示した注意事項は、状況によって重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 施工完了後、正常に作動することを確認してください。お客さまに引き渡すときは取扱説明書にそって使用方法、お手入れの仕方を説明してください。
- この施工説明書は、取扱説明書と共にお客さまで保管頂くように依頼してください。

用語および記号の説明

注意 ... 「取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物理的損害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。」

⚠ ... 「注意しなさい!」(上記の『注意』と併用して注意をうながす記号です。必ずお読みになり、記載事項をお守りください。)

⊘ ... 「してはいけません!」
(一般的な禁止記号です。)

⊘ ... 「分解してはいけません!」

❗ ... 「指示通りにしなさい!」
(一般的な行動指示記号です。)

注意

⊘ (禁止)	湯水を逆に配管しないでください。 ※水を出そうとしても、湯が出てやけどをする恐れがあります。	
⊘ (禁止)	給湯器の給湯温度設定は85℃以下でご利用ください。 ※水栓が破損し、ヤケドや家財を濡らす恐れがあります。	
⊘ (禁止)	衝撃を与えたり、もたれかかったりしないでください。 ※破損してケガをしたり、漏水や故障の原因となります。	
⊘ (禁止)	【寒冷地用の場合】水抜き栓は水抜き以外の目的で開けないでください。 ※湯水が噴き出し、ヤケドや家財等を濡らす恐れがあります。	
⊘ (分解禁止)	修理技術者以外の方は水栓を分解したり、修理したりしないでください。 ※ケガをしたり、故障・破損の恐れがあります。	
❗ (指示)	給水圧力は必ず給湯圧力以上にしてください。 ※正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。	
❗ (指示)	お客さまに引き渡す前に凍結が予想される場合は水を抜いておいてください。 寒冷地仕様の水抜き方法は、取扱説明書を参照ください。 ※凍結破損で漏水し、家財等を濡らす財産損害発生のおそれがあります。	
❗ (指示)	ヤケドの恐れがないところまで水圧変動を押さえた配管設備にしてください。 ※他所の水栓の使用などにより水圧変動が起こり、湯の使用中に湯温が急上昇し、ヤケドをする恐れがあります。	
❗ (指示)	フレキホースの差し直しをする際は、必ず湯側水側の両方の止水栓を閉じてから行ってください。 ※湯・水が噴出してヤケドをしたり、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	

本製品の仕様と使用条件

使用最高温度	80±5℃	使用可能水質	水道水および飲用可能な井戸水 ※1
使用環境温度	【一般地用】 0~40℃ 【寒冷地用】 -20~40℃		但し、内部の水を凍結させないでください。
給水(給湯)接続	G1/2		
圧力条件	0.05MPa(流動圧)~0.75MPa(静水圧)	給水圧力 ≥ 給湯圧力	※2
取付条件	水栓取付穴：φ34~φ38mm、カウンター厚：5~30mm		

※1：飲用可能な井戸水とは、水道法に定められた飲料水の水質基準に適合する水をいう。
※2：給湯圧力が給水圧力よりも高い場合、正常な調節ができなくなり、ヤケドをする恐れがあります。

ガス給湯器（比例制御式：16号相当）と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	A+0.05MPa（流動圧）※Aはガス給湯器の最低作動圧力です。
最高圧力	0.75MPa（静水圧）

測定条件は次の通りです。

- レバーハンドルは全開です。
- 給水温度5℃、吐出温度42℃(ガス給湯器との組み合わせが最も悪い冬季を想定)。
- 給水圧力はガス給湯器直前における流動圧です。
- ガス給湯器の設定温度は最高温です。

貯湯式温水器と組み合わせる場合の給水圧力

最低必要圧力	0.05MPa（流動圧）
最高圧力	0.75MPa（静水圧）

- 給水圧力と給湯圧力の差を小さくしてください。温度調節が容易になり使いやすくなります。

その他の条件

- 給水圧力が0.75MPaを超える場合は、市販の減圧弁で適正圧力(0.20~0.34MPa程度)に減圧してください。
- 給湯に蒸気は使用できません。
- 不意の出湯によるヤケド防止のため、**給湯器の設定温度は60°以下**をおすすめします。

施工前のご注意

取付けに必要な工具

- 取付けにはプラスドライバー、スパナ(対辺23)、専用工具KG-5(対辺17)または市販のソケットレンチ(呼び17)が必要です。

止水栓と点検口を設けてください

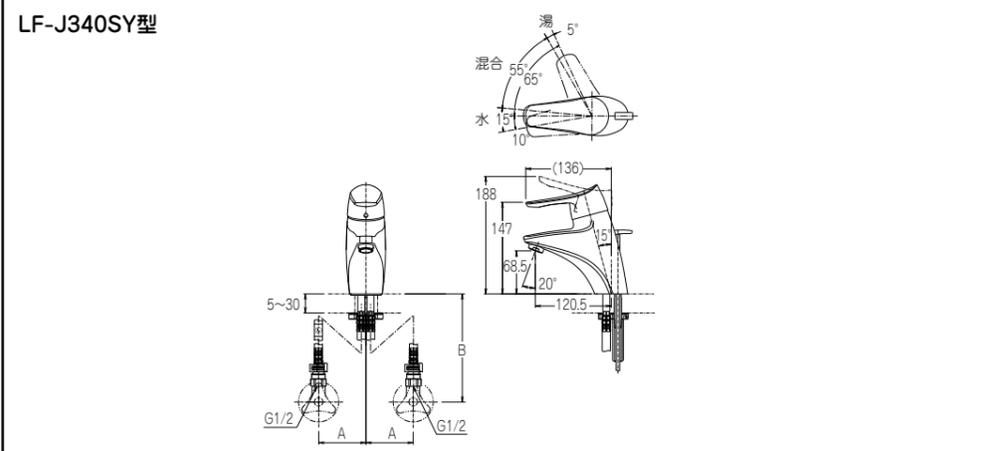
- 取付け後の流量調節及び保守点検のために、止水栓(別売)と点検口を設けてください。
- 使い勝手や性能発揮のために**流量調節をしてください**。とくに水圧が高い場合など、流量調節がされていないと漏水・破損の恐れがあります。

その他の注意点

- 給水は上水道に接続してください。
※温泉水などの異物を多く含む水には使用できません。
- 給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確認してください。
※逆配管では表示通りに湯が出ません。
- 給湯配管はできるだけ短くし、必ず保温材を巻いてください。
- 商品の表面には、直接工具を掛けないでください。
※工具を掛ける場合には、必ず商品に布等をあてて保護してください。
- 開梱・取付けの際には商品の表面に傷をつけないように十分注意してください。
- 必ず**配管中の異物を完全に洗い流してください**。
- 取付カウンターが厚い場合や、大理石などの特殊な材料を使っている場合は取付けができない場合があります。また穴あけなどの加工は十分注意して行ってください。

施工完了図

※品番によっては、図と現品の形状が一部異なります。

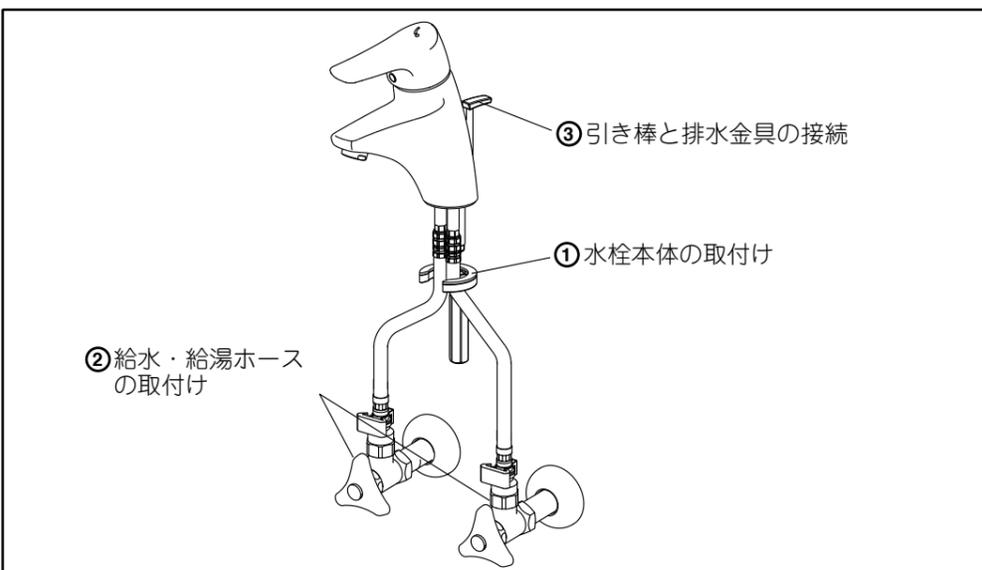


※止水栓位置の寸法は代表例です。

適正カウンター穴あけ寸法はφ36±2mmです。適正カウンター厚は5~30mmです。

Aは75±2mm、Bは275±15mmにしてください。

施工手順

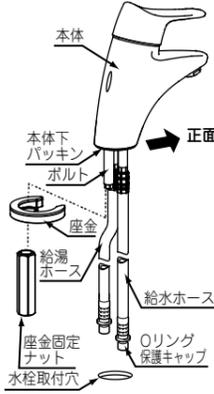


施工方法

1 水栓本体の取付け

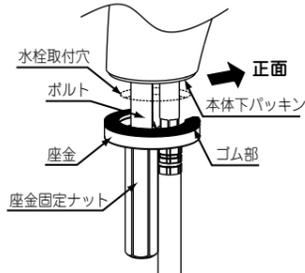
1. 本体から座金、座金固定ナットを外して、給水・給湯ホースを本体取付穴に挿入する。

- 注意**
- Oリング保護キャップはソケットと接続するまで外さないでください。
 - 給水ホース・給湯ホースが折れないようにご注意ください。
 - ※漏水する恐れがあります。



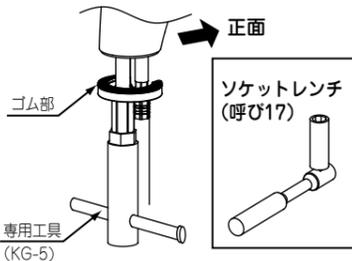
2. 座金、座金固定ナットをボルトに通し、水栓が水栓取付穴の中心に来るように設置する。

- 注意**
- 本体下パッキンがずれないように注意してください。
- ※漏水する恐れがあります。



3. 吐水口を正規の位置に向けた後、専用工具KG-5にて座金固定ナットを締め付けて、カウンターまたは陶器に固定する。

- 注意**
- 別売りの専用工具 (KG-5) もしくは市販のソケットレンチ (呼び17) を使用してしっかりと締め付けてください。
- ※漏水する恐れがあります。

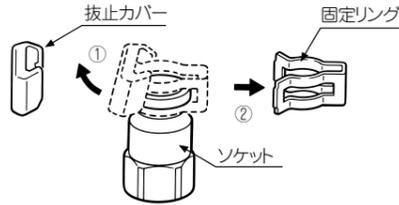


- ポイント**
- 座金のゴム部が水栓取付穴のまわりに密着するように固定する。

- 確認**
- 締め後、本体に浮き、グラつきがないこと。

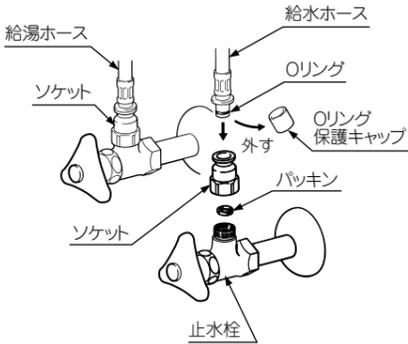
2 給水・給湯ホースの取付け

1. ソケットの抜止カバーと固定リングを外す。

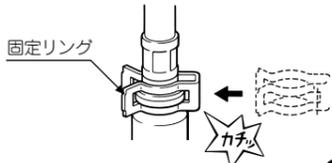


2. ソケットを止水栓に固定し、ソケットに給水・給湯ホースを差し込む。

- 注意**
- ソケットの中にパッキンが入っていることを確認してください。
 - Oリングを傷つけたり、ゴミがみないようにしてください。
 - 給水・給湯ホースを差し込むときは、無理に曲げないようにしてください。
 - ※注意しないと、漏水の原因になります。



3. 固定リング、抜止カバーを、確実にはめ込む。



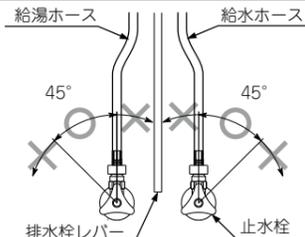
- 注意**
- 確実にはめ込んでください。
- ※しっかりとはめ込んでいないと、抜止カバーが外れて、漏水や固定リングでケガをする恐れがあります。

- 確認**
- 確実にはめ込んでいること。
- ※給水・給湯ホースを矢印の方向に引っ張り、確認する。

〔給水・給湯の取出位置によって止水栓を垂直に取付けできない場合〕

※止水栓の向きを図のように外側に約45°以内で傾けて、給水・給湯ホースが無理に曲がらないように調節してください。

内側に傾けると、排水栓レバーがホースと接触し重くなる場合がありますのでご注意ください (ポップアップ式のみ)。



3 ※LF-J340SY、LF-J340SYNの場合 引き棒と排水金具の接続

引き棒と排水金具を接続する。

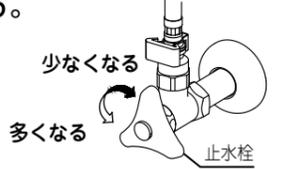
※接続方法は、排水金具に同梱の施工説明書をご覧ください。

施工後の調節

1 流量の調節

水栓の機能を十分発揮させるため、水圧が高い場合は湯と水の吐出量が同じになるよう水側の止水栓 (別売) を絞る。

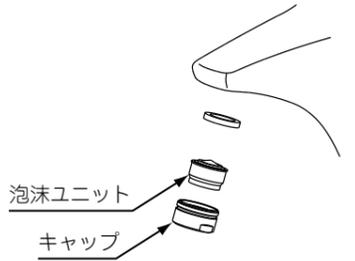
- 確認**
- 最終点検時は配管接続部の水漏れ点検を十分に行ってください。



2 泡沫口の掃除

初期通水後のゴミを取り除くため、泡沫口内の泡沫ユニットの掃除を、以下の要領で行ってください。

1. 泡沫口の紛失を防ぐため、排水栓を閉じる。または、排水口を布等でおおう。
2. 工具で泡沫口を回して泡沫ユニットを取り外し、水で掃除する。
3. 泡沫口部を工具でしっかり右に回して取り付ける。



- ポイント**
- 取付前に、乾いた布等で、泡沫口部に付着した水を拭き取る。
- ※泡沫口部が濡れていると、手が滑り、締付け不足になる恐れがあります。

引渡前の確認

お客さまに引き渡すまえに以下のような現象がないか確認してください。

現象	点検内容	点検箇所	処置
流量が少ない	圧力は十分か?	—	「使用条件」の項参照。
	配管途中に大きな抵抗はないか?	—	抵抗となる障害物を取り除く。
	泡沫ユニットのゴミ詰まりはないか?	①	ゴミ等を水で洗い流す。
水が止まらない	止水栓は十分開いているか?	—	止水栓を十分開く。
	ゴミかみはないか?	②	ゴミ等を水で洗い流す。
	キズはないか?	②	キズがあれば部品を交換する。
ハンドルが右側に回らない	ゆるみはないか?	③	カートリッジ固定ナットを締める。 ※締めすぎるとレバーハンドルが重くなる場合がありますので注意してください。
	ハンドルの操作位置は正しいか?	④	エコハンドルはレバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
	希望の温度が得られない	④	エコハンドルはレバー操作範囲が従来のシングルレバーと異なります。(施工完了図参照)
ハンドルがガタつく	圧力は十分か?	—	「使用条件」の項参照。
	泡沫ユニットのゴミ詰まりはないか?	①	ゴミ等を水で洗い流す。
	流量調節はよいか?	—	「流量の調節」の項参照。
ゆるみはないか?	⑤	ハンドル止めビスをしっかりと締める。	

※点検箇所は下図を参照してください。

